

## 【今夏の感染拡大時（第7波）の総括】

- 1日の感染者数が急速に増加し、発熱外来がひっ迫  
※過去最高：R4.8/24、2,027人
- 従事者の感染や院内クラスターの多発等により、医療機関の対応能力が低下 → ピーク時には重症者を中心とした入院受入に限定
- コロナ患者に加えて熱中症患者も発生したこと等により、救急医療体制がひっ迫
- 高齢者施設等でクラスターが多発

さらなる流行の拡大



季節性インフルエンザの同時流行の懸念

## 【高知県保健・医療提供体制確保計画の改定（R4.12月）】 （改定のポイント）

- 外来診療の拡充
- 入院協力医療機関の拡充
- 「#7119」の周知徹底等による救急医療のひっ迫防止
- 重症者リスクが低く、症状が軽い方が、安心して自宅で療養できる体制の確保
- 高齢者施設等におけるクラスター対策の強化

■ピーク時の想定患者数(1日当たり)  
**4,419人**  
(内訳)  
新型コロナ2,385人  
季節性インフル  
2,034人

### 1 陽性判明時から療養先決定までの対応

- 検査協力医療機関の増加や診療時間の拡大などにより、発熱等のある方への外来受診体制を強化  
248ヶ所（R4.8/1現在）→267ヶ所（R4.12/1現在）  
平日は約4,300人/日の診療が可能
- 「陽性者フォローアップセンター」を設置し、無症状の方などを登録
- 感染状況に応じて、薬の処方を行う「陽性者オンライン診療センター」の設置や、検査キットの配布を行い、発熱外来のひっ迫を回避  
陽性者オンライン診療センター R4.11/21再開

### 2 自宅療養者の健康観察・診療体制

- 「陽性者フォローアップセンター」で発生届対象外の陽性者からの相談などに対応  
24時間体制での相談対応、必要に応じて受診勧奨や医療機関の紹介 など
- 県薬剤師会と連携し、自宅療養者等への治療薬投与体制を整備  
自宅療養者等への調剤及び薬剤配送対応薬局 282ヶ所（R4.12/1現在）
- 宿泊療養施設の確保居室数  
6施設287室（R4.8/1現在）→ 5施設206室（R4.12/1現在）  
※第7波のピーク時（99人）以上の体制を確保

### 3 入院治療・救急医療の体制

- 最大確保病床数（通常フェーズ）  
285床（R4.8/1現在）→**333床**（R4.12/19現在）
- 入院協力医療機関の拡充や、転院先となる後方支援病院の追加に引き続き取り組むとともに、病床ひっ迫時には介護付き宿泊療養施設の開設を検討。
- 救急医療のひっ迫を防ぐため、「#7119」の積極的な広報を実施。  
また、容態が悪化した患者を円滑に移送できるよう、地域の消防本部との連携を強化。
- 医療従事者の欠勤状況をG-MISにより把握。  
必要に応じて医療機関への注意喚起を行うとともに、看護師等の派遣が必要な場合は、人材確保の調整業務を県が一元的に実施。

### 4 高齢者施設等における療養者の健康観察・診療体制

- 従事者等に対する集中的検査の実施（R4.12月～）  
週2～3回の頻回検査を継続的に実施
- 感染者発生時に速やかに受診ができる医療機関との連絡体制整備を支援  
県内の高齢者施設の82%で連絡体制を整備済み（R4.12/9現在）
- 希望する高齢者施設に感染管理の専門家を派遣し、指導・助言を実施  
県内11医療機関での支援体制を構築（R4.12/1現在）